

院長挨拶

contents

- ・泌尿器科の紹介
- ・地域連携センター
部長・看護師長挨拶
- ・地域連携研修会の報告

院長
挨拶

院長着任の挨拶

各診療分野において高度専門医療を行うと共に
患者さんに適切な医療を提供しています



山梨県立中央病院
院長

寺本 勝寛

平素より、医療連携につきまして、ご理解とご協力いただきまして誠にありがとうございます。

当院は、明治9年5月に開院以来、139年にわたって山梨県における基幹病院として、県民の需要に基づき医学・医術の進歩に応じ、各診療分野において高度専門医療を行うと共に、救急医療、周産期医療、がん医療に適切な医療を提供しています。本年5月で140年となります。その間、新中央病院建設基本構想の策定（平成7年）などを経て、新県立中央病院は、平成13年9月には第一期分が開院し、平成17年3月22日に全院開院いたしました。平成22年4月に公務員型の特定地方独立行政法人に移行しています。

新病院建設を契機に、平成13年9月に救命救急センター、総合周産期母子医療センター、がんセンター機能を整備しましたが、がんセンターは、平成18年8月には、都道府県がん診療拠点病院に指定されました。

救命救急医療は、平成24年4月からドクターヘリの運航を開始し、ドクターカーとの連携により、全県にわたり均質な救急医療の提供を行っています。

周産期母子医療は、センター開院に伴い平成19年には、新生児死亡率が全国で1番低くなり、妊産婦の死亡もなくなり目に見える効果が現れています。

がん医療は、平成25年1月通院加療がんセンターを、4月にゲノム解析センターを開設し、本県のがん医療の中核病院として機能しています。

平成27年4月には、総合診療科、感染科を新設しました。

各診療分野において高度専門医療を行いながら、他の医療機関との連携をとるために、地域連携センターを開設し、平成27年度は476名の連携医の方々に登録を戴き皆様の協力のもとに山梨県の医療強化を図ってまいりました。今後、さらに病診連携、病病連携を強化し、当院の特徴を發揮し、患者さんが遅延なく適切な医療が受けられるようにしていきたいと思っております。皆様のご支援のほどよろしくお願いいたします。



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

地域連携センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1
TEL.055-253-7111/FAX.(直通)055-253-2903

Topics

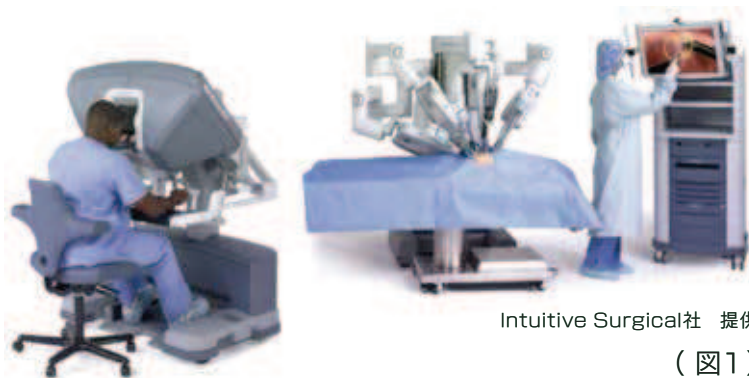
最新型 ロボット手術 について



泌尿器科副部長

横山 仁

前立腺がんに対して 最新型ロボット



山梨県立中央病院泌尿器科では、平成28年6月から前立腺がんの手術に腹腔鏡手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入いたします(図1)。ダヴィンチXiは現在本邦で使用されているダヴィンチシリーズの中では最新の機能を持ち、甲信越地方で初めての導入となります。

主なロボット手術の利点

創口が小さい(図2、3)

ロボット手術は鉗子用の小さい穴を6箇所開けて行います。従来の前立腺がんの手術と比べ目立たず、術後の痛みも軽減します。

出血が少ない(図4)

従来の手術と比べ、出血量のはるかに少ないです。患者さんの早期回復につながります。

繊細な鉗子の動き(図5)

多関節ロボット用鉗子は、まさに術者の手と同様、自由に動きます。狭い骨盤内で正確で繊細な手術が可能となります。このことは特に前立腺がんの手術で重要なステップである、尿道と膀胱の縫合に大いに役立ちます。さらにダヴィンチXiでは、今までのダヴィンチには無かった新しい機能を持ったロボット用鉗子が多数準備されています。

良好な3D High Vision による視野(図5)

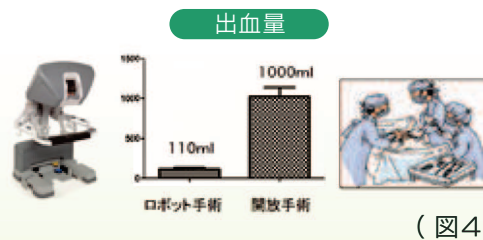
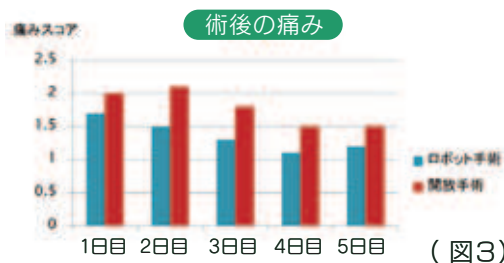
術者は、ロボットを操作するコンソールに座り、拡大された良好な立体画像を見ながら手術を行うことができます。3次元による正確な画像情報を取得できるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能となります。ダヴィンチXiでは、さらに画質が改良されました。

ダヴィンチ術後1年の患者さん
手術創は目立ちません



(図2)

ロボット手術と開放手術との比較



信州大学泌尿器科でのデータ

ロボット手術の対象となる疾患は

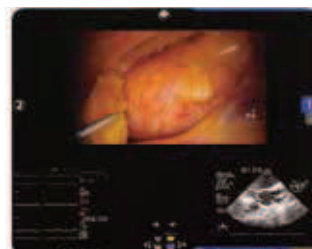
ロボット手術の保険適応になっているものは、前立腺がんに対する前立腺摘出術です。従来の前立腺がんの手術と同様、転移が無いことが前提となります。また、腹部に大きな傷がある場合は、腹腔内の癒着により、適応外となることもあります。術中は頭を下げる体位を取るため、緑内障や未治療の脳動脈瘤がある場合も適応外となる場合があります。

手術を開始いたします

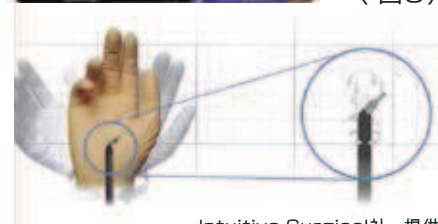
前立腺がんについて

今日、前立腺がんの罹患率は急激に上昇しており、2020年には男性がんの中で最も多くを占めると予想されています(図6)。これには、前立腺特異抗原(PSA)という優れた腫瘍マーカーの存在が寄与しています。大規模な臨床試験にて、PSA検査を基盤とした前立腺がん検診は前立腺がんによる死亡率を低下させることが証明されています。また、前立腺がん検診ガイドラインでは、50歳を過ぎたらPSA検診の対象とすることが望ましいとされています。一般にPSAの正常値は4.0ng/mLとされています。高値を示した場合は前立腺癌の疑いがあります。一度、泌尿器科専門医にご紹介下さい。

前立腺がんの診断確定には、前立腺生検が行われます。当院では1泊2日で前立腺生検を行っております。患者さんの年齢や既往歴などによっては、前立腺生検をせずにしばらくPSAの値を観察することもあります。前立腺生検によって前立腺がんが確定診断された後には、転移の有無を調べ治療が選択されます。



(図5)



Intuitive Surgical社 提供

前立腺がん手術の合併症

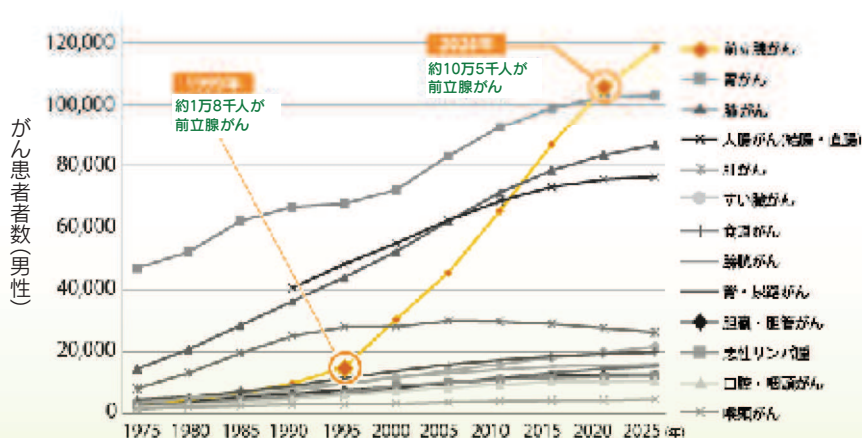
前立腺を摘出することによる主な合併症として、尿失禁、勃起不全があります。ロボット手術においても起こりうる合併症ですが、従来の手術と比較して優れていることが示されています(表1)。前立腺がんのコントロール(治療の成績)に関しては、長い期間の成績が出ていませんので確定的ではありませんが、従来の手術と差が無いという報告が多く出されています。いずれの治療を選択しても、治療後は定期的に経過観察を行い、再発の有無をチェックしていく必要があります。

おわりに

前立腺がんのロボット手術はこれまで述べてきたとおり優れた術式ですが、すべての前立腺がんが対象となるわけではございません。既往歴、年齢、がんの悪性度やステージなどにより最終的に適応が決まります。せっかくご紹介いただいた場合でも、手術の適応外となることがあります。その場合でも、各々の患者さんごとに適切な治療を行わせていただきます。平成28年4月には、一部の腎臓がんに対する手術がロボット手術の保険適応とされました。当院でも今後導入を検討したいと考えています。

地域医療機関の皆様におかれましては、当科への御紹介の労をとっていただき、誠にありがとうございます。今後もぜひよろしくお願いたします。また、経過が落ち着いている場合には逆紹介させていただき、その後の経過観察をお願いすることもございます。重ねて深謝申し上げます。今後も山梨県の基幹病院として、高いレベルの医療を目指し努力してまいります。

がん患者者数の将来予測



太島 明ほか(編):がん・統計白書-2012、篠原出版新社 (図6)

	ロボット支援手術	従来の開腹手術
断端陽性率	2.5%	5.9%
出血量	109 ml	1,355 ml
尿禁制率(3ヶ月)	89%	54%
尿禁制率(12ヶ月)	97%	93%
勃起機能	86%	71%

(表1)

米国でのデータ

2016
地域連携
研修会
H28年度

3.18 FRI



当院は院内・院外に向けた連携のための研修会を今後も定期的に行いたいと考えております。その都度ご案内させていただきますので是非ご参加して頂きたいと思っております。

地域連携研修会が
開催されました

心臓・大動脈手術の変遷、最近の話題
～医療連携強化に向けて～

平成28年3月18日(金)、当院多目的ホールにおいて、地域連携研修会を開催しました。

当院前院長で心臓血管外科医の土屋幸治医師が、「心臓・大動脈手術の変遷、最近の話題～医療連携強化に向けて～」と題して講演いたしました。

院外より19名の医師、看護師、相談員等が、院内からは77名の職員が出席しました。

実際のOPEの様子など動画を用いた講演で分かりやすいと盛況でした。

また、地域連携センターのこれまでの取り組みなども紹介して頂きました。

NEW



地域連携センター
部長

根本 篤

当院は山梨県の基幹病院として、各診療分野において患者さんに質の高い高度専門的医療を提供することを目指しております。しかしながら当院だけで患者さんの生活に根差した医療・診療が行えるわけではなく、県内外の各機関との連携が欠かせません。特に平成24年からは地域連携センターを設置し地域の医院や診療所などの連携強化を図っているところです。

さて、私は本年4月、地域連携・福祉支援科の部長を拝命いたしました。今までNICU(新生児集中治療室)を中心に仕事をさせて頂いてきましたが、NICUも地域との連携が欠かせない部門です。入院前には地域の産科診療所や病院、退院後にも小児の診療に携わる医院・病院、さらには各市町村の保健師や福祉部門、地域の相談員・訪問看護ステーション等、様々な形の協力が大切であることを実感しています。

今年度からは地域連携センターの一員として、より一層地域の皆様との連携を大切にしていきたいと思っております。当院は地域との連携なくして存続することができません。よろしくご指導いただけますよう、お願いいたします。

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、かかりつけ医によるFAX予約ができます。

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。

体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

電話予約の流れ

1

かかりつけの
医院を受診

紹介状をもらってください

2

専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00~17:00 月~金(祝祭日除く)

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に
準備して
ください

3

受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)